

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 16 日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24580226

研究課題名(和文) 観光デスティネーションとしての里山：レジャー観の多様性分析に基づいた活性化

研究課題名(英文) 'Satoyama' as a tourist destination -Local revitalization taking leisure diversity into consideration-

研究代表者

田中 伸彦 (Tanaka, Nobuhiko)

東海大学・観光学部・教授

研究者番号：70353761

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：「里山」を「人里近くにおいて人々の生活と結びついた山や森林」と定義した。その里山を、観光デスティネーション(D)としてとらえ、レジャー観の多様性を体系化し、科学的根拠に基づき計画的提言を行った。内容は1. 観光Dとして里山を捉える意義、2. 観光学におけるDマネジメントと資源/施設との関連、3. 里山観光を巡る興味関心と施策の変遷に関する考察、4. Dとしての里山の地理評価法の開発、5. 里山の自然公園管理から構成される。

成果としては、市民の里山に関する興味関心の広がりを経時的に明らかにし、里山観光Dの地理的集散状況の経年変化を定量化する指標を開発し、客観的な里山観光地評価を行うことを可能とした。

研究成果の概要(英文)：In this study, "Satoyama", was defined as "human oriented forest areas near human habitation." We studied the aspect of the Satoyama as a tourist destination. Tourists generally have a wide view of leisure aspects to the Satoyama. Also, we developed several indices for the Satoyama tourism promotion and made some recommendation. Results are the following; 1. Significance of Satoyama as a tourist destination, 2. Relationship between the tourism resources/facilities and Satoyama, 3. A historical study on citizens' interests over the Satoyama tourism, 4. Geographic evaluation of Satoyama as a tourist destination, 5. Management of Satoyama as a nature park. As several examples of the research are the following; Citizens' interests on the Satoyama spread in time series. And the indices in order to quantify the geographical distribution of the Satoyama as a tourist destination was developed. This study made it possible to manage Satoyama as a tourist destination in scientific planning.

研究分野：林学/観光学

キーワード：里山 観光 レクリエーション 地理的評価 時系列評価 地域資源 地域活性化 デスティネーション・マネジメント

## 1. 研究開始当初の背景

かつて里山はマスツーリズムの対象外の農山村であったが、近年新たなツーリズムの形態が台頭しはじめ観光デスティネーションとして脚光を浴び始めた。つまり、傑出して風光明媚ではない地域の里山が、観光で地域活性化に貢献し始めた。

現在の里山観光の多くは、旅行業者をはじめとするツアー供給側主導、つまりは発地型観光の形でグリーン・ツーリズムや環境活動プログラムを中心に供給されることが多い。しかしながら一方で、里山にはウォーキングや絵画文芸、山菜きのこ採りなど、多様な潜在ニーズがあるため、地元発信の着地型観光でコンテンツを更に多様化させ、活用することが可能である。

そのための調査研究が今後必要になってくると思われるが、現状では里山に対するレジャー観の多様性に着眼して体系的に分析した計画論的研究や実践例は未だ非常に少ないため、この様な着地型のデスティネーション・マネジメントは、我が国ではほとんど行われていない。

## 2. 研究の目的

上述の背景を鑑み、本研究では、里山地域における着地型のデスティネーション・マネジメントを念頭におき、レジャー観の多様性分析と現地実証を組み合わせ、体系的な地域活性化計画について考察することを目的とした。

## 3. 研究の方法

研究構成については、以下の5つの柱を立てた。

- (1)「観光のデスティネーションとして里山を捉える意義
- (2)観光学におけるデスティネーション・マネジメントと資源/施設
- (3)里山観光を巡る興味関心と施策の変遷に関する考察
- (4)デスティネーションとしての里山地域の地理的評価手法の開発
- (5)里山地域のマネジメント制度としての自然公園に関する考察

上記の(1)および(2)が、「研究の目的」で掲げた「里山地域における着地型のデスティネーション・マネジメント」に係る研究項目である。方法としては、まず、日本の余暇施策に関する近年の動向と問題の全体像について、既存行政資料等を用いてとりまとめた。そして焦点を里山に絞り、生態系サービスの観点から余暇時代における森林/里山の文化的サービスに関する考察を行った。

続いて、「デスティネーション・マネジメント」をキーワードとした領域学としての高等教育研究の体系化の必要性を、観光学分野を中心とした研究レビューによってとりまとめ、環境変動下における森林/里山のデスティネーションとしての将来展望と適応性に係る文献研究を行った。

更に、観光資源としての里山の位置づけを

明らかにするために、デスティネーションの成立過程から見た観光対象の分類に係る考察を進めた。

上記(3)は「レジャー観の多様性分析」に係る研究項目である。方法としては、日本人の里山に対する観光的関心や興味に関する考察を既存研究レビューにより整理した上で、国立国会図書館のデータベース「国立国会図書館サーチ (NDL Search)」を活用して、公刊図書の出版動向から見た里山に対する関心や嗜好の分析を行った。

続けて、『日本近代林政年表(香田 2000)』などを活用して、近年の我が国における日本の観光レクリエーションに関わる林野施策の動向を調査し、提供者側の里山観光施策の関心についても考察を行った。

上記(4)および(5)が「現地実証を組み合わせ・体系的な地域活性化計画」に係る研究項目である。方法としては、まずは、福島県只見地域他を対象地として、日本観光振興協会の観光情報データベースなどを活用したメッシュ解析を行い、観光レクリエーションに利用される里山観光デスティネーションの地理的集散状況の経年変化を定量的にモニタリングする手法の検討を行った。更に体系的な地域活性化計画を考えるためには、都道府県立自然公園などの制度の活用が重要となると判断し、里山地域の自然公園の管理に関する制度分析を行った。

## 4. 研究成果

### (1)観光のデスティネーションとして里山を捉える意義

日本人の標準的な寿命(約80年・70万時間)の約3割を占める余暇時間において、「国民に如何に充実した余暇生活を過ごしてもらおうのか?」という課題を解決するために、日本の行政施策がどのように展開されたかを、戦後昭和期の「経済安定本部(経済企画庁)」の施策から近年の内閣府・消費者庁の施策までを時系列的に整理し、考察した。その結果、余暇行政が盛んであった1960年代から1980年代にかけては、我が国は科学技術や生産性の進歩に伴い国民の労働時間が大幅に短縮すると予測し、国民の労働時間は減り、余暇中心のライフスタイルが定着するだろうと予測していたが、現実にはそうならず、余暇行政は生活者重視の視点から消費者重視へという施策転換に伴い、むしろ労働者の余暇時間環境は悪化し、余暇に関する話題が放置された状況に置かれていることが指摘できた。

その様な中、里山については生態系サービスの観点から癒やしや余暇的な側面から脚光を浴び始めていることも明らかにされた。

そのため、観光のデスティネーションとして里山を捉える意義が客観的に見いだされ、「デスティネーションとしての里山」の重要性が位置づけられた。

また、デスティネーションとしての里山の計画管理を学術的に行う基礎条件として、

「デスティネーション・マネジメント」をキーワードとした領域学としての高等教育研究の体系化の必要性を、観光学分野を中心とした研究レビューによってとりまとめた。

成果の一例を、下図に示す。この図では、観光学の職能が、多様なディシプリンに支えられた「地域マネジメント(管理)学」と、会社や組織等の「マネジメント(経営)学」いう、2つの領域学に支えられる上位的な「メタ領域学」を修めるといって説明できることを提示できた。

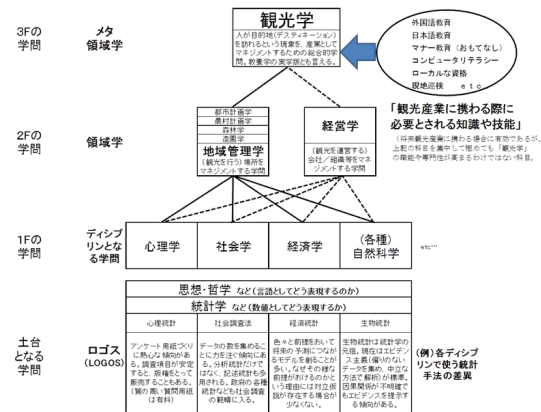


図1 「マネジメント」をキーワードとした領域学としての大学観光教育の体系

## (2) 観光学におけるデスティネーション・マネジメントと資源/施設に関する考察

この研究項目においては、下図のとおり、観光という現象を、「余暇に活用できる自由裁量時間と、余暇を遂行する能力をもった人間、つまりレジャー・レクリエーションを楽しむ人間が、娯楽・休息・祭礼などの理由から目的地(デスティネーション)を訪れる行為」と捉えた。

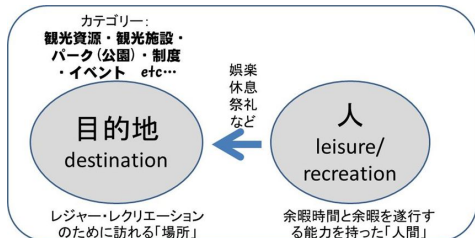


図1 「人間」と「場所」の関係から図化した観光デスティネーションのあり方

更に下図のとおり、「観光デスティネーションが産業として成功するまでの成立過程のフローチャート」を考案し、里山をはじめとする観光資源のデスティネーション化の過程を明らかにした。

## (3) 里山観光を巡る興味関心と施策の変遷に関する考察

里山に対する一般的な関心や嗜好の実態を明らかにする目的で、タイトルに里山を冠して過去に有償出版された公刊図書を対象に悉皆分析を行った。データの抽出には国立国会図書館の検索データベース NDL Search を活用した。その結果、269 件の「里山本」が確認され、最初の「里山本」は 1985 年に出版され、平成期とともにコンスタントに出版されるようになったこと、21 世紀に入ってから常年 10~20 件程度の出版状況にあ

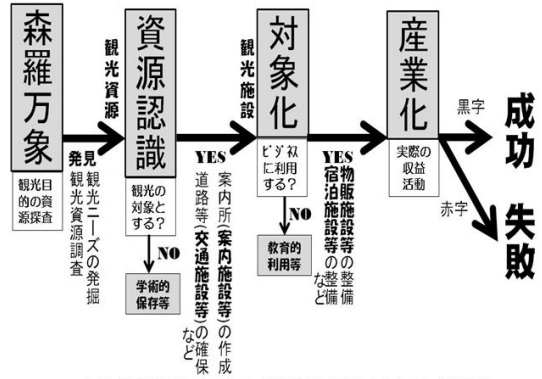


図2 観光デスティネーションが産業として成功するまでの成立過程と、「観光施設」や主要な「観光関連施設」との関係

ることが確認できた。対象読者は一般、児童、幼児向けのものが確認された。NDC 分類の分析においては「里山本」は 0~9 類すべてのジャンルで確認されるという関心の全方位性が確認できた(下図)。都道府県のキーワード分析では、岩手県から沖縄県まで 32 の都府県から「里山本」が発信されていた。

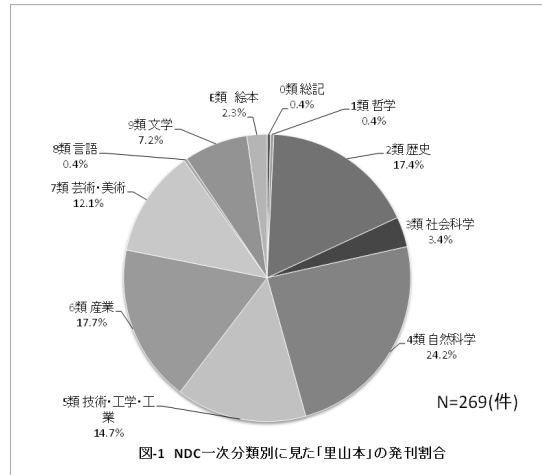


図1 NDC一次分類別に見た「里山本」の発刊割合

KJ 法により書籍のキーワード分析を行った結果からは、7つの大分類、14の小分類に関心や嗜好が分類されるという結果を得た(下図)。上記の結果は、これまでの世論調査の質問設定項目や研究レビューによる報告よりも広い関心や嗜好を、一般市民が持つことを示していたため、これらの成果を里山施策にも活かす必要があることを指摘できた。

続いて、『日本近代林政年表(香田 2000)』等を用い、里山のマネジメントに大きく関わる我が国の森林管理の近代行政施策の歴史を振り返る中で、我が国における観光レクリエーションに関する動向を整理し、林野施策における観光レクの位置づけの変遷を取りまとめることを目的とした研究を行った。その結果、明治期以降の施策的歴史の流れを辿ると、林野施策全般における観光レクリエーション施策は、明治期に開始された近代

1. 里山自休及び用語		4. 生物圏語彙		5. 自然/環境問題		7. 教育/レクリエーション	
1) 里山	43	1) 生物全般	7	1) 自然保護	1	1) 教育的活用	1
2) 里海	6	2) 生物地理	2	2) 自然保護	30	2) 農業教育	1
3) 里村	2	3) 生態学	4	3) 森林保護	9	3) 学習指導	1
4) 山村	2	4) 地域研究	4	4) 地域研究	1	4) 観察	16
小計	60	5) 森林生態学	2	5) 生息地	1	5) 博物館	3
2. 歴史/時代		6) 共生(生物学)		(2) 環境/公害		6) 環境	
1) 歴史	10	7) ドクトープ	1	6) 環境	1	7) 水害対策	1
2) 認知時代	11	8) 植物/菌類	15	7) 環境用語	4	(2) 野外活動	10
小計	21	9) 樹木	2	8) 環境教育	1	8) 案内	2
3. 農林水産		10) 広葉樹		9) 産業廃棄物		9) 野外活動	
1) 農林水産業	113	11) 樹	3	10) 産業廃棄物	3	10) 登山	2
2) 農業教育	1	12) ツツジ	1	11) 農産物処理	2	11) 登山	2
3) 都市農業	1	13) 花	1	12) 不法投棄	1	12) ハイキング	1
4) 遊園	1	14) どんぶり	1	13) 水処理	1	13) エコツアー	1
5) 耕作放棄地	1	15) 山菜	1	14) 福島第一原発事故	1	14) コルフ場	1
6) 林業	2	16) ハーブ	1	(3) 保全活動	1	15) 公園	1
7) 人会権	1	17) 藻類	2	15) NPO	1	16) 環境森林公園	1
8) 造林	4	18) キノコ	2	16) 大衆運動	1	17) 植物園	1
9) 森林作業	1	19) 松茸	1	小計	50	(3) 芸術/文化的活用	1
10) 森林利用	2	20) 動物/昆虫	7	18) 楽園	13	18) 楽園	13
11) 森林有害虫	2	21) 野生動物	2	19) 農業	2	19) 農業	2
12) 遊歩	2	22) 哺乳類	2	20) 登山	4	20) 登山	4
(2) 農的生涯		23) 鳥		21) 写真		21) 写真	
13) 農村生活	2	24) こもり	1	22) 丹次山	2	22) 工業美術	1
14) 家政	2	25) 鳥	1	23) 三浦	2	23) 三浦	2
15) 日記	1	26) カワセミ	1	24) 石仏	1	24) 石仏	1
16) 年中行事	1	27) 芝草	1	25) 日本語	1	25) 日本語	1
17) 料理(漬物)	1	28) 昆虫	5	26) 俳句	1	26) 俳句	1
18) ワイン	1	29) 蝶	3	27) 俳句	1	27) 俳句	1
小計	28	30) あり(蝶)	1	28) 俳句	1	28) 俳句	1
		31) オオムラサキ		29) 俳句		29) 俳句	
		32) オオムラサキ		30) 俳句		30) 俳句	
		33) ホタル		31) 俳句		31) 俳句	
		小計		77		77	

図-3 KJ法による「里山」キーワードの類型化

的森林管理の中でも位置づけられ下表のとおり関心が多様化してきた経緯を明らかにすることができた。

時代区分	時期の専攻	自然環境保全の視点	観光資源・施設の視点	農業・林業の視点	産業・観光の視点	地域振興の視点	市民生活の視点
第1期	明治期	近代農業の普及	観光資源の整備	農業の近代化	観光客の増加	地域振興の意識	市民生活の向上
第2期	大正期	観光資源の整備	観光資源の整備	農業の近代化	観光客の増加	地域振興の意識	市民生活の向上
第3期	昭和初期～終戦	観光資源の整備	観光資源の整備	農業の近代化	観光客の増加	地域振興の意識	市民生活の向上
第4期	戦後～1950年代	観光資源の整備	観光資源の整備	農業の近代化	観光客の増加	地域振興の意識	市民生活の向上
第5期	1950年代後半～1970年代	観光資源の整備	観光資源の整備	農業の近代化	観光客の増加	地域振興の意識	市民生活の向上
第6期	1970年代後半～1990年代	観光資源の整備	観光資源の整備	農業の近代化	観光客の増加	地域振興の意識	市民生活の向上
第7期	1990年代後半～2010年代	観光資源の整備	観光資源の整備	農業の近代化	観光客の増加	地域振興の意識	市民生活の向上

#### (4) デスティネーションとしての里山地域の地理的評価手法の開発

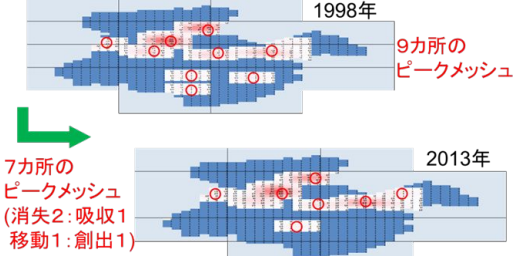
里山地域の観光レクリエーションに着目し、経年変化によりデスティネーションがどのように変容するかをモニタリングする手法の開発を目的とした。

まず、対象地内を3次メッシュ(1kmメッシュ)に区切り、各メッシュ内に存在する観光資源・施設を把握した。次にそれらの重要度を(財)日本交通公社の基準に基づき判定した上で、5×5メッシュのフィルタリング法により各メッシュの得点を数値化し、メッシュ図を作成した。なお、対象地域内の既存観光資源・施設数と場所については、1998年と2013年の2時期の「全国観るナビ(旧全国観光情報ファイル)」データベースを活用した。

具体的には、福島県只見町を対象に、観光デスティネーションの地理的集散状況の経年変化を定量化する手法の検討を行った。そして、単なる資源・施設数の変動や、既存のフィルタリング法によるピークメッシュ

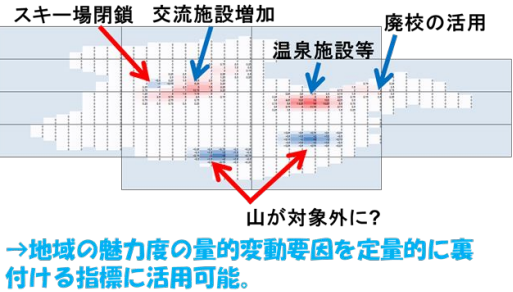
の変動(下図:只見での解析事例)に留まらず、

#### 【フィルタリング法による解析】



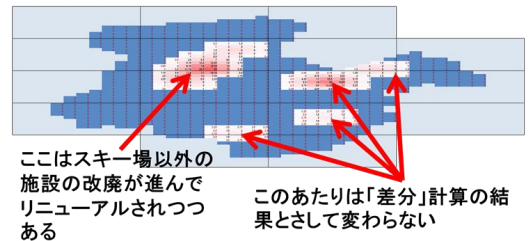
地域の魅力度の量的変容を表す「差分指標」(下図:只見での解析事例)と、

#### 【フィルタリング法解析の得点の「差分」計算】



質的変容を表す「得点変動の2乗指標」(下図:只見での解析事例)の、

#### 【得点変動の2乗をメッシュごとに計算する指標】



2つの指標を、新たに開発・提案することができた。

これらの手法は既存データがあれば国内外で応用可能な手法であるため、汎用性が高いと判断できた。

#### (5) 里山地域のマネジメント制度としての自然公園に関する考察

ローカルな観光デスティネーションとなっている里山はすでに保護地域となっている場合が多い。具体的には、自然公園法による都道府県立公園や自然環境保全法による都道府県自然環境保全地域、文化財保護法による都道府県史跡名勝天然記念物などである。

そのため、茨城県を中心として県立自然公園と県立自然環境保全地域の里山観光デス



ディネーションとしての位置づけについて調査を進めた。また、並行して、点として文化財や水面、線としてのコリドーや歩道、面としてゾーニングなどのキーワードからデスティネーションとしての価値を探った。基本情報は茨城県の自然公園の計画書および自然公園財団による自然公園の手引き(2015)を用いた。

その結果、都道府県立自然公園や自然環境保全地域では「図」となる文化財が中心にあり、里山が「地」として文化的景観を形成している。すなわち、「自然」という表現が核心部に存在する文化財の魅力を見えにくくしているとも言えるという結果を導いた。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### 【雑誌論文】(計9件)

田中伸彦(2015)1970年代から1990年代にかけての日本の観光レクリエーションに関わる林野施策の動向, 林業経済 58(1), 19-35

Nobuhiko Tanaka and Erwei Dong (2014) 日本休閒政策的動向与問題 (In Chinese), 小康 (Insight China) 2014年11月中号, 86-90 (ISSN: 1672-4879) (招待論文)

田中伸彦(2014) 公刊図書の出刊動向からみた里山に対する関心や嗜好の分析, 日本森林学会誌 96, 155-167 (査読有)

Toshiya Matsuura, Ken Sugimura, Asako Miyamoto, Hiroshi Tanaka and Nobuhiko Tanaka (2014) Spatial Characteristics of Edible Wild Fern Harvesting in Mountainous Villages in Northeastern Japan Using GPS Tracks, Forests 5, 269-286 (査読有)  
DOI:10.3390/f5020269

松浦俊也・林雅秀・杉村乾・田中伸彦・宮本麻子(2013) 山菜・キノコ採りがもたらす生態系サービスの評価 - 福島県只見町を事例に -, 森林計画学会誌 47(2), 55-81 (査読有)

宮後巧・伊藤太一(2013) 首都圏自然歩道における歩車分離状況と標識配置特性, ウォーキング研究 17, 51-55 (査読無)

Toshiya Matsuura, Ken Sugimura, Asako Miyamoto and Nobuhiko Tanaka (2013) Knowledge-Based Estimation of Edible Fern Harvesting Sites in Mountainous Communities of Northeastern Japan, Sustainability 6(1), 175-192 (査読有)  
DOI:10.3390/su6010175

田中伸彦(2013) 「マネジメント」をキーワードとした領域学としての大学観光教育の体系化に関する検討, 日本観光研究学会全国大会学術論文集 28, 69-72, 241-244 (査読無)

田中伸彦(2012) デスティネーションの

成立過程から見た観光に係る施設の分類, 日本観光研究学会全国大会学術論文集 27, 241-244 (査読無)

#### 【学会発表】(計19件)

田中伸彦(2015) 日本ではエコパークと呼ばれる生物圏保存地域は観光デスティネーションたりうるのか?, 第126回日本森林学会大会(2015年3月27日 於:北海道大学)

神宮翔真・伊藤太一・武正憲(2015) 「牛久自然観察の森」の保全活動にみる里山利用の可能性, 第126回日本森林学会大会(2015年3月27日 於:北海道大学)

田中伸彦(2014) 「レガシー」と明治神宮の風致, 日本レジャー・レクリエーション学会第44回学会大会(2014年12月6日 於:立教大学(新座キャンパス))(レジャー・レクリエーション研究 74: 17 所収)

Taiichi Ito and Nobuhiko Tanaka(2014) An Analysis of Long-Distance Trail Development in Japan Based on Protected Area Management and Rural Development, XXIV IUFRO (International Union of Forest Research Organizations) World Congress (Oct. 5-11, 2014 Salt Lake City, USA)

Nobuhiko Tanaka, Toshiya Matsuura Asako Miyamoto and Ken Sugimura (2014) A Method to detect Spaciotemporal Changes of Tourism / Recreational Potential in Nature-Based Areas -With a Several Case Studies in Japan, XXIV IUFRO (International Union of Forest Research Organizations) World Congress (Oct. 5-11, 2014 Salt Lake City, USA)

Nobuhiko Tanaka and Takashi Yamada (2014) Geographical Evaluation of Rural Tourism Management :Analyzing the Distribution of Tourist Attractions and Accommodations, World Leisure Congress 2014 in Mobile, Alabama USA (Sep.7-12, World Leisure Congress 2014; Book of Abstracts, p90)

伊藤太一・川端篤志・中村彰宏(2014) 都道府県立自然公園・自然環境保全地域における文化資源の役割, 第125回日本森林学会大会(2014年3月26-30日 於大宮ソニックシティ(さいたま市))(第125回日本森林学会大会学術講演集: 190 所収)

Nakamura, Akihiro, Ito, Taiichi and Kawabata Atsushi (2013) Changes in Land Use Following Natural Disasters and the Role of Protected Areas, 1st Asia Parks Congress (Nov.13-17, Sendai International Center, Japan)

田中伸彦(2013) 観光レクリエーションに利用されるデスティネーションの地理的集散状況の経年変化を定量的にモニタリングする手法の検討, 日本レジャー・レクリエ

ーション学会第 43 回学会大会 (2013 年 11 月 10 日 於:東北福祉大学(仙台市))(レジャー・レクリエーション研究 72:68-69 所収)

**田中伸彦**(2013)日本人の里山に対する観光の関心や興味の分析,日本観光学会第 103 回学会大会(於:愛知大学(愛知県名古屋市)2013 年 6 月 22 日) (日本観光学会第 103 回全国大会研究発表要旨集 p36-37)

Nakamura, Akihiro, **Ito, Taiichi** and Kawabata Atsushi (2013) An nalysis of Protected areas in Japan designated and managed by Prefectures –Ecological Value of Prefectural Parks Is Rising, ISSRM2013, (June 4-8, YMCA of the Rockies, Estes Park Center, Colorado USA)

**Ito, Taiichi**, Nakamura, Akihiro and Kawabata Atsushi (2013) Enlargement Protected Areaa System by Increasing Connectivity, IUFRO Protected Areas and Place Making Conference (Apr. 21-26, Foz do Iguasu-PR, Brazil)

**伊藤太一**(2013)日本におけるウィルダネス指定の可能性,第 124 回日本森林学会大会(於:岩手大学(岩手県盛岡市) 2013 年 3 月 25-28 日)

**田中伸彦**(2012)里山がもつデスティネーションとしての特性に関する考察,日本観光学会第 102 回学会大会(於:東海大学代々木キャンパス 2012 年 11 月 10 日)(日本観光学会第 102 回全国大会研究発表要旨集 p28-29 所収)

若木彩夏・堀啓介・田代佳奈美・山田貴志・久末真菜・ショウテイ・**田中伸彦**(2012)神奈川県丹沢地域の観光デスティネーションの構造と特性,日本レジャー・レクリエーション学会第 42 回学会大会(於:上智大学四谷キャンパス 2012 年 11 月 18 日)(レジャー・レクリエーション研究 70 p105 所収)

渡辺芽生・間瀬菜々美・川村涼・赤坂恵・吉田美奈・**田中伸彦**(2012)神奈川県平塚市周辺地域の観光レクリエーション資源・施設の地理的構造,日本レジャー・レクリエーション学会第 42 回学会大会(於:上智大学四谷キャンパス 2012 年 11 月 18 日)(レジャー・レクリエーション研究 70 p104 所収)

佐々木雅文・城戸口恭章・平松真衣・林由貴奈・菅波詩乃・二重作昌満・**田中伸彦**(2012)日本レジャー・レクリエーション学会第 42 回学会大会(於:上智大学四谷キャンパス 2012 年 11 月 18 日) (レジャー・レクリエーション研究 70 p104 所収)

**Nobuhiko Tanaka** and Hironori Okuda (2012) Can Green Tourism Create New Destinations in Satoyama Rural Areas? - A Case Study of a Geographical Analysis in Mogami Area, Yamagata Prefecture, Japan -, XII World Leisure Congress, 2012 Rimini (Sept. 30 - Oct. 3, 2012 , Rimini, Italy) (Rimini World Leisure Congress Book of Abstracts (ISBN: 139781881516095)

**田中伸彦**(2012)パーク・ツーリズム・デスティネーションマネジメント -ユネスコエコパーク登録を目指す只見町へのエール-,2012 年森林施業研究会現地検討会「自然環境(森林)と地域振興を考える」(2012 年 9 月 22 日:於「福島県只見町 森の分校ふざわ」)

#### 【図書】(計 4 件)

**Nobuhiko Tanaka** (2015) Providing Regional Information for Collaborative Gvernance -Case Study Regarding Green Tourism at Kaneyama-machi, Yamagata Prefecture, (Motomu Tanaka and Makoto Inoue Editors, Collaborative Governance of Forests: Towards Sustainable Forest Resource Utilization, University of Tokyo Press 発行、ISBN:978413077011 所収) 249-272

**田中伸彦**(2015)気候変動下における山岳リゾートの将来展望と適応策(森林環境研究会編『森林環境 2015』、森林文化協会発行 ISBN9784998087106 所収) 102-111

**田中伸彦**(2014)第 10 講:文化的サービス(日本森林学会監修『教養としての森林学』、文永堂発行、ISBN9784830041273 所収)、107-114

**田中伸彦**(2013)第 5 編 第 4 章 森林観光レクリエーション問題と丹沢の再生(木平勇吉他編『丹沢の自然再生』、J-FIC、612pp、ISBN:9784889652253 所収) 531-541

#### 【産業財産権】

出願状況(なし)

取得状況(なし)

#### 【その他】

ホームページ等

**田中伸彦** (2013) インターネットビデオ講義(動画)「デスティネーション・マネジメントと観光学」(Tokai Education System) <https://docs.google.com/file/d/0B7tnA22dQtpISW5yM0oyZnZRZ1U/edit?pli=1>

## 6. 研究組織

(1)研究代表者

田中伸彦(TANAKA, Nobuhiko)

東海大学・観光学部・教授

研究者番号:70353761

(2)研究分担者

伊藤太一(ITO, Taiichi)

筑波大学・生命環境系・教授

研究者番号:40175203

(3)連携研究者

なし